

狩野川流域懇談会の概要

1. 狩野川流域懇談会の設立趣旨

狩野川流域は、昭和 33 年の狩野川台風により代表されるように、これまで幾度となく洪水が発生し、流域の人命、資産は多大な被害を受けてきました。また、近年の流域の都市化の進展、社会構造の高度化により、被害の広範囲への影響が懸念され、地域では、治水の安全性の向上が強く求められています。

また、国民生活に質やゆとり、良好な環境を求めるニーズの増大や、価値観の多様化が進み、河川に治水、利水の役割だけではなく、うるおいのある水辺空間や多様な生物の生息、生育環境の場として、また、地域の風土と文化を形成する重要な要素として、その個性を生かした川づくりが求められています。

このような背景の中で、平成 9 年 6 月に河川法が改正され、これまでの治水、利水に加え「河川環境の整備と保全」が新たに位置づけられ、その実現に向けて具体的な計画を定める「河川整備計画」を作成することとなり、狩野川においても、治水と河川環境の調和、地域の風土・文化を育みながら健全な地域の発展を図るといった川づくりを推進するための河川整備計画を作成していきます。

狩野川流域懇談会は、安心して暮らせる地域、豊かでゆとりある地域を目指し、狩野川及び地域の特性にあった川づくりのあり方について、ご意見を頂き、河川整備計画へ反映するため「治水部会」、「環境部会」、「地域活性化部会」の 3 つの部会を設置しています。

2. 懇談会構成メンバー

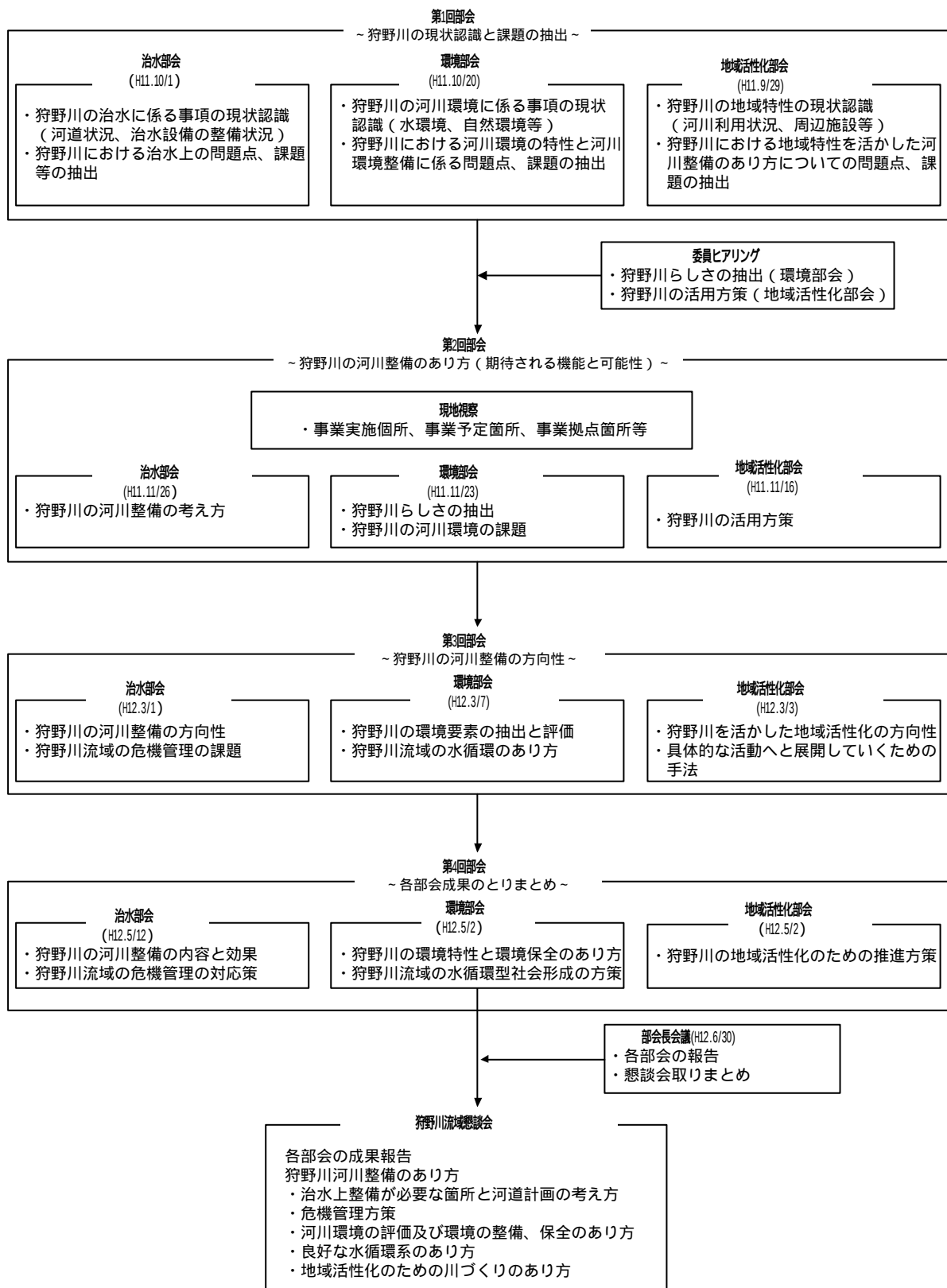
部会名	委員名（敬称略）	所 属
治水部会	大川 和幸 ○小菅 晋 鈴木 一紘 芹澤 伸行 田中 博通 棚田 博人	韮山町消防団長 東海大学海洋学部土木工学科教授 静岡新聞社東部総局長 函南町長 東海大学海洋学部土木工学科教授 静岡県沼津土木事務所長
環境部会	板井 隆彦 漆畑 信昭 北村 眞一 小池 政臣 高橋 節蔵 高橋 真弓 ○土 隆一 室野 克昌 湯浅 保雄 渡辺 公司	静岡県立大学食品栄養科学部助教授 柿田川みどりのトラスト代表 山梨大学工学部循環システム工学科教授 三島市長 静岡県野鳥愛護協会会長 静岡東高等学校講師 静岡大学名誉教授 狩野川漁業協同組合理事長 静岡大学農学部助手 静岡県東部農林事務所長（4 月以降は野村敏明）
地域活性化部会	稲村 浩宣 大場 章吉 木村 博 下山 忠男 ○杉山 恵一 鈴木 順久 橋本 賢一 松井 恵子	中伊豆青年会議所理事長 沼津市歴史民俗資料館長 県史調査員、城ヶ崎文化資料館顧問 「狩野川倶楽部」会長 静岡大学教育学部教授 伊豆長岡南小学校長 沼津青年会議所理事長（4 月以降は荻原誠） グループカレッタ代表

○は部会長

3. 懇談会討議内容

流域懇談会の各部会の討議内容とその成果は以下のとおりである。また、懇談会の討議フローは次ページの図のとおりである。

部会	討議内容	成 果
治水	(1) 河道計画 狩野川にふさわしい河道計画 ・狩野川の河道特性の検討 ・河道計画の基本的考え方 (2) 危機管理 ・警戒、避難体制のあり方 ・情報伝達体制、手法、内容の検討 ・避難体制 ・防災組織のあり方 ・水防、洪水予報の問題点、改善策 (3) その他 ・その他、治水、危機管理上、必要な事項	・狩野川の河川特性の現状を認識するとともに、治水上の課題を抽出し、治水面から見た河川整備のあり方や危機管理のあり方を討議した結果、狩野川においては、堤防が計画通りに整備されていない箇所が多く存在していることから、当面、堤防の嵩上げや強化等を中心に整備を行っていくこと。また、洪水に対する被害を最小限に食い止めるため、防災意識の高揚や情報の迅速な収集発信といった危機管理体制の確立の重要性について意見が得られた。
環境	(1) 河川環境整備保全 ・生物の生息、生育環境の保全 ・現況の河川生態系の評価 ・現況の生態系に影響を与えている要因の把握 ・河道計画と環境保全の関係 ・河川改修メニューとの調和 ・景観 ・狩野川らしい景観を醸し出す要素 ・景観保全手法 (2) 水環境・水循環・水利用 ・狩野川で維持すべき流量・水質 ・狩野川流域の水循環 ・柿田、三島湧水保全手法等 ・適正な水使用手法、使用量 ・流量・水質の維持、改善 (3) その他 ・その他、河川環境の保全上必要な事項	・狩野川流域の河川環境や水循環の現状と課題を認識するとともに、生物の生息環境や景観・風土などの観点から、狩野川らしさを代表する環境と要素を抽出し、環境要素の重要度に応じた環境保全のあり方について討議した結果、狩野川の河川環境の評価を行い、狩野川らしさを特徴付けている環境と、河川整備における環境保全のあり方を示すことができた。さらに、健全な水循環社会を構築するため、住民の意識高揚と流域一体となった取り組みの必要性について意見が得られた。
地域活性化	(1) 教育 ・教育と連携した河川整備手法 (2) 河川文化 ・狩野川に係わる文化の把握 ・河川文化を生み出す風土の把握 ・保全、再現する河川文化とその手法検討 (3) 河川利用 ・利用面から見た現況河川の評価 ・河川利用のあり方、システム検討 (4) 地域活性化 ・地域活性化に資するための河川整備 ・地域との連携 ・住民の参画による川づくり (5) その他 ・その他、地域活性化を検討する上で必要となる事項	・狩野川における人と川との係わりの現状と課題を認識するとともに、狩野川の軸とした地域活性化を図るための活用方策について提言を頂いた。また、これらの活用方策をより効果的に展開するためには、独自性を保ちながら、相互の魅力を引き立てられるようなシステムづくりが重要であるとの意見が得られた。



流域懇談会討議フロー